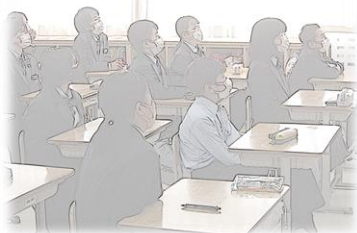




ともに チャレンジ!
～ 美しい「あ・や・が・わ」の創造 ～
あらたな文化 やすらぐ校風 がんばる心 わの精神

綾川中学校
学校便り No.37
2022年2月24日

第3回学校運営協議会の開催 ～ 学校運営協議会からの提言 ～



令和4年9月15日付け「学校便りNo.18」で学校運営協議会について紹介しましたが、2月21日(火)に、その3回目の協議会を実施し、令和4年度の綾川中学校の教育活動の営みについてご意見をいただきました。教職員、生徒、保護者のアンケート結果や授業参観、学校行事への参加等を通して感じられた成果と課題について忌憚のないご意見をいただきましたので、その要旨を以下に紹介します。これらの意見を踏まえ、令和5年度の教育活動の構想をしまります。

- 生徒アンケートでは「先生方が話を聞いてくれた」という回答が多いので、しっかりと先生に自分のことを話し認めてもらい、自分のことを好きになって自信をもってもらいたい。
- 「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒が多いことが生徒アンケートから分かり、学校が統合してよかったのだと感じる。保護者アンケートも好結果の項目が多い。
- 何度か学校を参観する機会があり、各クラスの男女間の和や仲良く学校生活を送っていることが感じられた。
- 校内音楽祭等、行事で子どもたちの輪が広がっている。クラス全体の雰囲気よくなると、自ずと授業も頑張るといことにつながり、いい雰囲気学校生活を過ごしていると感じた。
- 今の子どもは、タオルの絞り方を知らなかったり、雑巾がけをしたことがなかったりする。家庭教育は大切である。学校便りで家庭の教育力を高める紙面づくりをすることも大切である。
- タブレットPCの活用について、例えばグループでの話し合いでは、タブレットの画面を通してではなく、相手の声を聞き、表情を見て、相槌を打ちながら生の反応を見るなど、活用する場面を吟味することが大切である。
- 小・中学校の縦と横のつながりを意識し、小学校の取組を中学校の取組につなげることが大切である。小学校でも、中学校同様、聞くことがつながりをつくると考え実践している。
- 朝ごはんの摂取率が8割弱であること、睡眠時間が6時間未満の子どもの存在、学校統合により子どもの心が荒れたりつらい思いをしたりしていないかということが気になる。
- 一部の制限があったものの学校行事がすべて実施できてよかった。授業参観、校内音楽祭を通して、先生方の指導ぶりや授業の風景が見られてよかった。
- 学校を訪問した際、部活動帰りの子どもたちがさわやかに挨拶をしてくれて気持ちがよかった。先生方の指導の賜物である。
- コロナ禍の中、子どもは休みやすい環境になっている。こんな状況下、子どもがスマホを使って勉強のことを友達と相談したり、プリントを友達とSNSで画面共有したりする場面を見た。つまり、携帯を持っていたらゲームやネットの閲覧をしているとは限らない。よくも悪くも私たち大人もスマホを使っている。スマホ依存と有効利活用とを吟味する必要がある。
- コロナ禍の中、子どもたちがイベントのない普段の生活でやりがいを発見しようとするのは難しい。学校では、少ない行事であっても先生方が認めてくれることが子どもに伝わり、自己肯定感が高まっている。校内音楽祭については、感染拡大防止のため数多くの制限があったが、あれほどの演奏を見せるなど、とても頑張っていた。
- コロナ禍の中、綾川中学校の先生方に頑張っていたいている。そのことが、子どもたちの成長やアンケートの好結果につながっている。自分の子どもは小さい頃から学習方法の1つとしてタブレットを使い、ゲーム性のある教材を使って学習を行っていた。メディアをうまく活用して学習と結びつけることも大切である。
- 先生方が、自分たちの取組をアップデートしようとしているのがすばらしい。また、生徒アンケートの「準備をして休憩できている」こともすばらしい。構えづくりを大切にしてほしい。
- 保護者が、学校便りをきちんと読んだり、学校の諸課題に対する迅速な対応や保護者や地域の願いに応じていると評価したりするなど、皆が新しい学校を応援していると感じる。
- 保護者の方は、家庭学習が課題と捉えているようだが、子どもたちの自己評価では、予習よりも復習を大切にしようとしており、とてもよい傾向である。
- 保護者の「子どもは部活動に積極的に取り組んでいる」という評価が高い。部活動への保護者の思いが強く、子どもとの話題になっていると感じる。子どもにも部活動への意識を聞いてみてはどうか。